



「人間の暮らしは自然に支えられている」という当たり前の常識を見つめ直す

What's Kisyouisyu!?

今、日本では環境の変化や人間による開発、外来種の持ち込みなどの影響により多数の生物が絶滅と隣り合わせだと言います。「そんなこと、私には関係のないこと」だと思っていたら大間違い！私たち人間と自然、他生物との間には切っても切れない関係があります。今回は「希少種」に注目し、その関係性を紐解いていきたいと思ひます。

三重の希少種一覧

「希少種」とは、「絶滅の恐れがある生物の中で特に保護が必要な種」のことを言ひます。つまり、積極的に守っていかねばならない生物だということ。三重県では、三重県自然環境保全条例によって 20 種が「三重県指定希少野生動植物種」に指定されています。

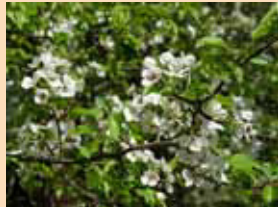
- ◆ ツキノワグマ
- ◆ カンムリウミスズメ
- ◆ カラスバト
- ◆ ウチヤマセンニユウ
- ◆ カワバタモロコ
- ◆ ウシモツゴ
- ◆ カワラハンミョウ
- ◆ ハクセンシオマネキ
- ◆ シオマネキ
- ◆ カナマルマイマイ
- ◆ ヒモヅル
- ◆ ヘゴ
- ◆ オオタニワタリ
- ◆ オニバス
- ◆ ジュロウカンアオ
- ◆ マメナシ
- ◆ ハマナツメ
- ◆ ムシトリスミレ
- ◆ トダスゲ
- ◆ ツクシナルコ



ハクセンシオマネキ



カナマルマイマイ



マメナシ



ハマナツメ



ムシトリスミレ

カワバタモロコをたずねて三千里

「希少種」というくらいなので、その姿を見られることは滅多にない！と思うかもしれませんが、生息地に行けば会うことができます。例えば希少種の一つであるカワバタモロコは、名張市の里山にある「トンボ池」に生息しています。1960年代頃までは、ごくごく普通に見られる魚でした。

しかし、水質汚染やため池のコンクリート化などにより生息地が減少、個体数が激減してしまったとか…。

この夏、そんなカワバタモロコに会いにいけるイベント「カワバタモロコに会いに里山のトンボ池に行こう!!」が開催されると聞きつけ、実際にカワバタモロコを見に行き、保護活動を行っている地元のNPOの方にお話をお聞きしました。



いざ、トンボ池へ！



険しい山道



トンボ池に到着



除草作業



集合写真！



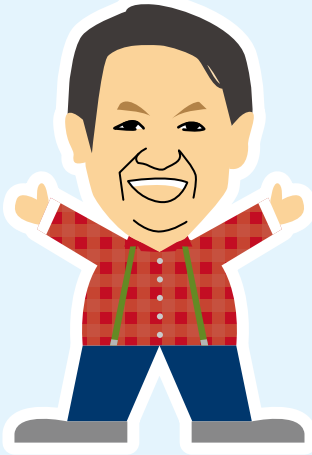
カワバタモロコ放流！



カワバタモロコのお話へ！

カワバタモロコの生息地をはじめ里山を守る活動をされている地元のNPO

「赤目の里山を育てる会」の代表 伊井野雄二さんにお話を聞きました



1990年、名張市赤目地区の里山にゴルフ場建設の計画がありました。地域住民は赤目の里山を守るため団結し、赤目の里山の良さを生かした開発を代替案として主張し、その代替案は支持を集め里山の自然は残されました。しかし1995年には産業廃棄物処理場の建設のため赤目の里山の木々が伐採されはじめました。そんなとき「産業廃棄物処理場反対!!」といった看板をたて反対運動を起こすのではなく、生物の住みやすい環境をつくっていこう!と里山の自然をいかしトンボ池をつくり、そしてトンボ池でカワバタモロコを繁殖させることになりました。豊かな里山にはカワバタモロコ以外にもさまざまな生き物が生息しています。現在赤目の里山はこうやってイベントをしたり、近隣の小学生と環境活動をする場所になっています。

希少種は、なぜ希少種になった!? ～3つの危機と地球温暖化～

カワバタモロコが地元の方によって保護され、繁殖にも成功していることはわかりましたが、ここで「そもそもなぜ、希少種は希少種になったのか?」という疑問が出てきませんか? 希少種や絶滅危惧種などの種の減少には、「3つの危機と地球温暖化」とよばれる原因があります。

●第1の危機

(人間活動や開発による危機)

人間による開発や活動など人が引き起こす負の影響要因による生物多様性への影響。例えば…鑑賞や商業利用のための乱獲・過剰な採取や埋め立てなどの開発によって生息環境を悪化・破壊。人間活動が環境に与える影響は大きい。

●第2の危機

(人間活動の縮小による危機)

自然に対する人間の働きかけが縮小・撤退することによる影響。例えば…二次林や採草場が利用されなくなったことで生態系のバランスが崩れ、里地里山の動植物が絶滅の危機にさらされている。

●第3の危機

(人間により持ち込まれたものによる危機)

人間が近代的な生活を送るようになったことにより持ち込まれた外来種等による危機。例えば…外来種が在来種を捕食したり、生息場所を奪ったり、交雑して遺伝的になく乱をもたらすなど。また、化学物質の中には動植物への毒性をもつものがあり、それらが生態系に影響を与えることがある。

★地球温暖化による危機

生物多様性は、気候変動に対して特に脆弱であり、地球温暖化は大きな課題。例えば…平均気温が1.5～2.5度上がると、氷が溶け出す時期が早まったり、高山帯が縮小されたり、海面温度が上昇したりすることによって、動植物の20～30%は絶滅のリスクが高まるといわれている。

「3つの危機と地球温暖化」を食い止めるために、できることは?

三重県みどり共生推進課 野生生物班の方にお話を聞きました

3つの危機と地球温暖化は、すべて私たち人間の行動によってもたらされたものであり、便利で豊かな生活を求めた結果です。そして、これからも続いていくことだと思います。それを止めるということは、極論を言ってしまうと今の生活を捨て、原始的な生活に戻ることになります。

しかし、それをすんなりと受け入れられる人は多くないのではないのでしょうか。

では、どうすれば良いのかというと、「自然を守りながら上手に利用する」という選択肢があります。

例えばモノを大切に長く使う、無駄な消費をしない、ペットを自然に放さないなど、ひとりひとりができることはたくさんあります。

そして、「そもそもなぜ希少種になったのか?」「なぜ希少種を保護しなければならないのか?」など「なぜ」を考えると、自然の利用方法を見直さなければならない状況下に私たちがいるのだと、知ることができます。希少種がいるということは、生物多様性に黄色信号が灯っていることとなります。ひとつの種が絶滅してしまうと、多くの種が生命の危機に瀕(ひん)することになるので、このままのスピードでいけば私たち人間も絶滅してしまうかもしれません。自然を守るということは、いわば自分自身を守るということに繋がります。私たちの生活は自然がある上で成り立っているのだという意識を改めて持つことが、希少種、生物多様性、自然を守る第一歩だと考えます。



みえの自然楽校

わたしたちが豊かな生活を送れるのも自然があってこそ。ひとりひとりが便利すぎる生活を少し見直し、希少生物や自然環境について考え、行動していくことは生物多様性を守っていく第一歩ではないのでしょうか。

協力：特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会、三重県農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班